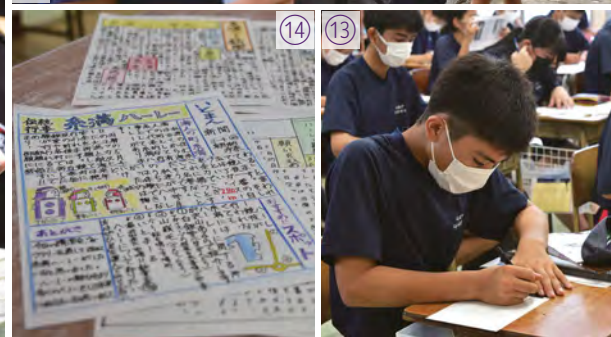




伝え受け継ぐ伝統 糸満ハーレー



しか見たことがない生徒が多い中、長い間ハーレー行事に携わってきた与那嶺さんの講話やウォークラリー・エリア学習を通して、生徒たちはこれまで知らなかったハーレーの歴史や文化に触れることができたと思います。生徒たちからも「これまで何となく見ていたハーレーだけど、衣装の意味など知れてよかった」といった感想も聞けて、ハーレー行事に対する意識の変化を感じることができました。この体験を経て参加するハーレー行事は、また違った印象になると思うので楽しみです。

【写真の説明】

①⑥ 白銀堂での御願 ②ハーレー歌を奉納 ③山嶺毛での御願 ④御願ハーレーのスタートになったけど、先人たちが繋いできた伝統を形にしたいと思い旗振りを行ったと話す玉城亨さん ⑤旧歴4月27日のハーレー鐘打ちのハーレー船に乗って記念撮影(いとまろ) ⑧⑨糸満ハーレー講演会。講師は糸満ハーレー行事委員会参加の与那嶺和直さん ⑩⑪⑫白銀堂や山嶺毛でハーレーにまつわるクイズなどエリア学習をする生徒たち ⑬それぞれ学んだことを新聞にまとめます ⑭完成した新聞 ⑮真剣な眼差しを覗く生徒たち

Interview



授業を企画した糸満中学校の前田佐綾香先生(左)、玉城昇太先生(中央)、久山智恵子先生(右)

3年連続でハーレーが中止となつて、生徒たちの地域行事に対する愛着が薄れていると感じたことから、糸満ハーレーの聖地巡礼ウォークラリーを企画しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い3年連続で中止となった糸満ハーレー行事ですが、6月2日のユッカヌヒー(旧暦の5月4日)に、山嶺毛や白銀堂では、御願やハーレー歌の奉納が行われました。また、翌3日糸満中学校は、ハーレーの歴史や文化に触れ、郷土を愛する心を育むことなどを目的に企画された糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリーを実施。次の担い手となる生徒たちが糸満ハーレーについて真剣に学びました。